wish 前橋市手をつなぐ育成会報 ●●●ウィッシュ

発行所
前橋市手をつなぐ育成会
前橋市東上野町459-1
前橋市立前橋特別支援学校内
TEL027-260-3001
発行人　原澤　正光
印刷所　マルエー印刷
TEL　027-232-1684

ホームページアドレス　http: ／／ m-teotunagu.moo.jp ／
メールアドレス　info@m-teotunagu.moo.jp

第46回福祉パレード開催！

今年も恒例の福祉パレードが、９月11日（火）群馬県庁での中央集会を皮切りに、県内各地で実施されました。

今年は、前橋市手をつなぐ育成会が中毛地区Ａ班（前橋地区）の幹事団体ということで、前橋地区の活動について事務局として運営にたずさわりました。

前橋市役所前広場で行われた前橋市集会では、集まっていただいた200名を超す参加者を前に、実行委員会を代表して本会の原澤会長が、市長・市議会議長・市教育長へ代表者としてのメッセージを読み上げ、続いてご本人代表の第２福祉作業所、清水伸一さん・南雲彩歌さんが、日頃感じている思いなどを、手話も交えながら直接お伝えしました。

その後行われたパレードでは、今年も市役所前を出発し、県庁前から国道50号の起点を通過、元気プラザ21までの通りを往復するコースで行いました。今年でこのコースを歩くことになって４回目ということや、警察の方の心強い交通誘導をしていただけていることもあり、かなりスムーズに安心して行進できるようになったと感じています。

多くののぼり旗や事業所のプラカードなども並べての大行進で、多くの方に注目していただくことができ、先導車のスピーカーから流されるＰＲメッセージも、ビルの谷間をゆっくり通過することで、非常によく反響して以前より多くの人の耳に届いたのではないかと思います。

パレード後は、今年もけやきウォークへ移動しての啓発活動を行い、作業製品の販売や啓発用ティッシュの配布を行いました。今年もぐんまちゃんは大人気で、登場するとすぐに人だかりができて、一緒に記念撮影する人が並ぶなど大いに雰囲気を盛り上げてもらいました。

運営面や啓発効果等課題は多くありますが、毎年行政・学校・福祉事業所・育成会が、このように一つの行事を通じて連携して活動できるということ自体が、地域の福祉環境を整備していく上での大きな基盤になっているように思います。関係者一同、今後もしっかりと手をつないで、より良い活動を続けて行ければと思います。　（前川）

「ゆうあいハイキング」開催

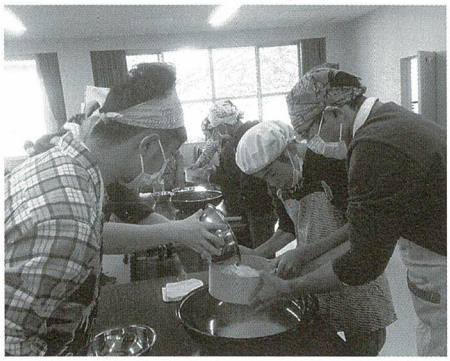
11月10日（土）～11日（日）、２年ぶりに国立赤城青少年交流の家を会場にゆうあいハイキングを実施しました。

絶好の紅葉シーズンにあたり、色鮮やかな大自然の歓待を受けながらの実施に心躍らせて、素敵な交流を深めることが出来ました。

初日は入所オリエンテーションと昼食の後、最高のシーズンのため、多くの人が訪れてにぎわう「赤城自然園」へ行き、広々とした園庭をハイキングしました。それぞれのペースで、端から端まで踏破するグループもあれば、色づく景色をじっくりと眺めゆっくりと歩まれるご家族もあり、午後のひとときをマイナスイオンをたっぷり吸い込みながら満喫しました。

夕食後の交流ゲームでも、ご本人、保護者、スタッフが一体となって、対抗ゲームなどに童心に帰って夢中になって取り組み、たっぷりのふれあいを楽しみ、笑顔あふれるひとときを共有、宿泊室に戻ってからも、消灯時間ギリギリまでゆったりと交流を深めました。

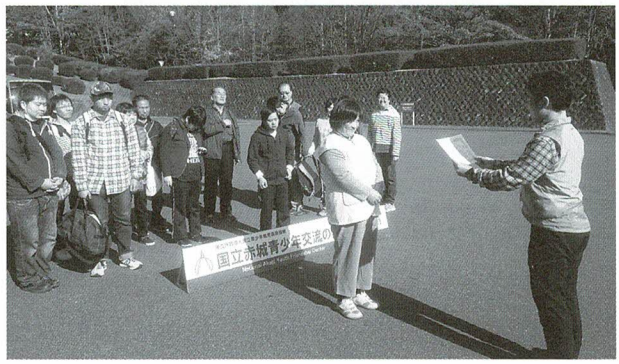
翌日は、うどん打ち体験を楽しみました。皆さん職人のように支度を整えて、それなりにその気になりながら、元市内中学校の校長先生という講師の先生のとっても楽しいご指導をいただき、班ごとに個性あふれる（？）うどんを打ち、ゆであげて、各々で作った自慢のうどんを、お互いに分け合い批評なども交わしながら、楽しく試食しました。なかなかお店では味わえないような噛みごたえのあるうどんもあり、額に汗しながらみんなで力を合わせて打ったうどんの味は格別なもので、にぎやかなランチタイムを楽しみました。



それぞれ出来る作業や集中力に差がありますので、関わり方は様々ですが、みんなで時間を共有して作り上げたものを味わうということの楽しさを実感できた体験となりました。

最後の退所式では、青少年交流の家より「優良団体」として表彰状をいただき、１泊２日の素敵なひとときを、喜びの中で締めくくることも出来ました。

参加者は、ご本人８名、ご家族・支援者15名の計23名で、日帰り実施の昨年から比べると、約半数ぐらいでした。来年以降の実施形態については、検討の余地もありそうですが、ご参加いただけた皆さんの良好な感想も多くいただけていますので、しっかりと相談を重ねて、よりよいものを企画して、継続していきたいと思います。　（前川）



料理教室

H30年11月25日（日）前橋市総合福祉会館に於いて、料理教室を開催いたしました。

変わりフレンチトースト、鮭のラピコットソースかけ、じゃが芋と玉ねぎのスープ、コーヒーゼリーを、参加した親子・ボランティアで作り、楽しい一時を過ごしました。とても美味しく、皆、残す事なく、自分達で作ったお料理をお話ししながらいただきました。

参加者の声

毎年参加させていただき、レパートリーが増えて嬉しいです。障害のある人達と参加して、和気合い合いとでき、楽しい一時を過ごさせていただきました。来年もまた参加したいと思います。

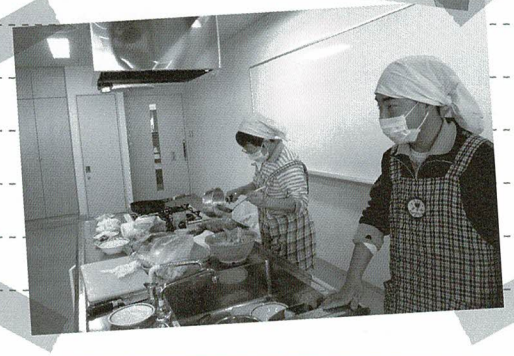
ボランティア　清水　栄

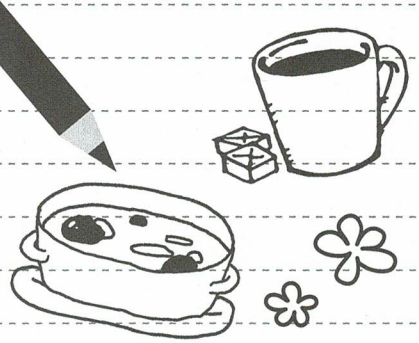
まいとしさんかしてよかった。
おいしかったです。

久保田優子

まいとしさんかしてよかった。
おいしかったです。

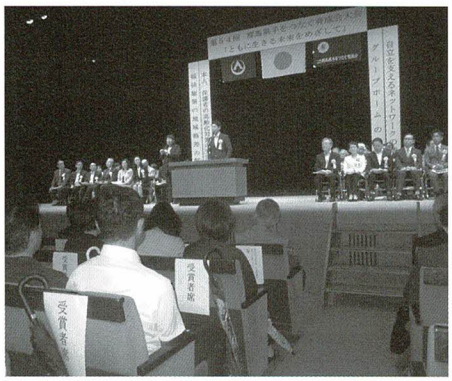
優子





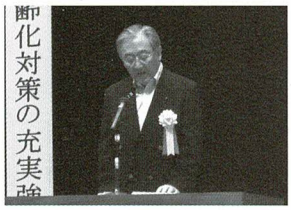
群馬県育成会大会　安中市

群馬県障害政策課長　小林　啓一



私は富士見町に住んでいて、前橋市手をつなぐ育成会の会員でもありますので、今般、ＷＩＳＨ編集担当者の方から依頼がありましたので報告させていただきます。

第54回群馬県手をつなぐ育成会大会が、７月28日（土）に安中市文化センターで開催されました。朝方の雨の中、県内各地から会員の皆さん約800人が会場に集まり、ホールはほぼ満員となりました。オープニングに「手をつなぐ母の歌」が地元コーラスグループにより披露された後に、開会式は始まりました。開会あいさつでは、江村恵子会長から、相模原市の障害者施設殺傷事件に触れて「差別意識を変えていく運動を進めていくこと」が重要とお話がありました。次に、来賓あいさつを、反町副知事、茂木安中市長、星名県議会副議長、国会議員の方々からいただきました。



続いて、地元保護者代表の新井みき江さんが意見発表を行った後、知的障碍者本人の会「つるの会」役員の皆さんから要望が発表されました。「わかりやすい言葉で話してほしい」ことや「グループホームをもっと増やしてほしい」ことなどが発表されました。大会決議では「災害時の避難システム構築」や「特別支援教育の充実」など８項目が決議されました。

その後のアトラクションでは、地元の（社福）光の里のＣＯＳＭＯＳの皆さんがソーラン節などを披露してくれました。午後は、東京の（社福）睦月会理事長 綿　祐二氏の講演会がありました。「親亡き後に向けて、家族がするべき準備と心構えとは」をテーマにしたお話は、とても現実的な内容で、経済的シュミレーションなどの例で説明がありました。

来年は、藤岡市で開催されることとなっています。多くの会員が参加することにより、大会を盛り上げるとともに、育成会の活動をより一層活発化して、知的障害者福祉の推進をアピールしていくことが重要だと思います。皆さんの参加をよろしくお願いいたします。

親が子離れできない現実を少年の時から見て来て、保護者が10年20年先の姿を見すえ、いかに腹をくくれるかが大切で、親としての心構えを教えてくださいました。（高山）

第52回　手をつなぐ育成会関東甲信越大会川崎大会

第1分科会「働く」～新しい働き方の選択肢を探る～

1　基調講演「障害者の働き方はひとつじゃない」

須藤シンジ氏（NPO法人ピープルデザイン研究所代表理事）

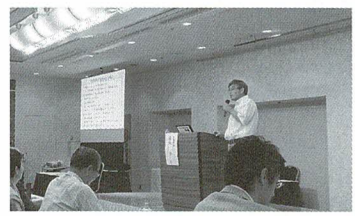
・‘心のバリアフリー’をクリエイティブに実現する思想や方法として、「ピープルデザイン」という新たな概念を提唱し、障害の有無を問わずハイセンスに着こなせるアイテムや各種イベントをプロデュース。デルフト工科大学ほか国内外の教育機関との連携。主に渋谷区や川崎市の行政と連動したマチづくりまで幅広い活動をしている。障害者と健常者が混ざり合いながら楽しく‘働く’「就労体験」事例を解説。

2　シンポジウム

須藤シンジ氏と近藤武夫氏（東京大学先端科学技術研究ｾﾝﾀｰ人間支援工学分野准教授）

・就労の機会の格差をなくし「週３～５時間しか働けない人」でも社会参加できる手法として「超単時間労働」を考案。障害の特性によってはっきりと職務を定義し、障害者を健常者と同じ職場で働く「戦力」として企業が迎える新しい働き方を提唱。（原澤）

手をつなぐ育成会　関東甲信越大会参加報告



「ご本人を囲んで、ご本人の思いに寄り添って、三ヶ月に一回は集まってくれる支援チームをつくる（育てる）。これこそが、ご本人のために残すべき最も大切な財産です。」お馴染みの福岡寿先生（日本相談支援専門員協会顧問）の基調講演の一節（編集者意訳）です。

９月14日（金）、神奈川県川崎市において、関東甲信越大会が開催され、前橋育成会の事務局からも会長はじめ４名が参加させていただきました。「働く」がテーマの第１分科会と、「高齢～親の支援なきあとの障害のある人の生活を考える」がテーマの第２分科会に分かれて、私は後者の第２分科会に参加しました。

テーマが、「差し迫った課題」としてとらえている方が多い内容であったことと、シンポジウムの出演者が、前述の福岡氏をはじめ、又村あおい氏、田中正博氏、佐藤嘉晃氏といった、育成会の大会などで各々が大人気の方々が顔を揃えていたこともあり、会場となった川崎日航ホテル12階は超満員の盛況でした。

前半の福岡氏の基調講演では、冒頭に記載したとおり、ご本人が高齢化して、親が支援を出来なくなったときに、相談支援事業者を中心にした支援会議が、如何に本人の思いにあわせて展開されているか、そしてその頻度は２～３ヶ月に１度ぐらいのペースで開かれているか、なおかつそこで挙げられた本人の思いを、どのようにして現実に実現可能なものとして、組み立てあるいは新たに創り上げていくのか、といったことを、チームとして真剣に考え続けて実現し続けている取り組みを、実践例を挙げながら、紹介していただきました。

後半のシンポジウムでは、高齢化していく中で、介護保険サービスとの併用、共生型類型の登場、サービス付き高齢者住宅の活用などといった、現在進行形でめまぐるしく更新されていく制度や解釈について、現状としてのとらえ方や、つきあい方などを教えていただきました。

「親なきあと」は現実として待ったなしで訪れる課題です。その時我が子を安心して託せる頼もしいチームが、本当に存在して確立しているのか、そしてチームで挙がってきた希望や課題を実現するために、必要なサービスは身近にあるのか、無ければ生み出していこうという姿勢や柔軟性が我々の街にもあるのか、といった部分での意識に地域格差を、あらためて感じさせられたようにも思います。

特に福岡氏が紹介してくださった長野県の北信地域障がい福祉自立支援協議会は、基幹相談支援センターを事務局として常に地域福祉の課題克服を目指していて、年間256回（平成29年度）もの部会等を開催し、その中には、本人中心部会の中に「ニーズ聴き隊・かなえ隊」「行ってみてやってみて委員会」などといった、ご本人の思いに徹底して寄り添うための活動も展開されているということに驚きを感じました。

最後の質疑応答で、質問や意見を述べられた方は３名とも群馬県からの参加者でしたが、切実な思いと、我が街の絶対的な資源不足の現れと感じました。

基本的には、すべての福祉圏域に自立支援協議会も基幹相談支援センターも整備されてはいますので、そういった機関が先進地域に負けないような十分な機能を果たしていけるよう、各地域の手をつなぐ育成会など当事者団体が、積極的に協力して活性化させていくことが大切だと思いました。（前川）

H30 施設見学会　伊勢崎市　一条工務店

前橋市立前橋特別支援学校　教諭　片貝　優子

去る８月３日、前橋市特別支援教育担任会（特担会）主催による施設見学会が実施されました。今年度の見学先は、伊勢崎市の一条工務店群馬です。前橋市内の小中学生、保護者、教職員合わせて 55 名が参加しました。例年のように「前橋市手をつなぐ育成会」の補助で、バスを利用させていただきましたので、この場をお借りして感謝申し上げます。

当日は、一条工務店群馬の会社説明や障がい者雇用についてのお話を総務課 塚越様からお聞きすることができました。その後、２名の方が実際に勤務されている様子を見学することができました。お二人とも精神障害の方で、お一人はパソコン入力、データ処理等の事務的なお仕事。もう一人の方は、物流関係の具材の荷おろし等をされています。お二人とも仕事に集中して取り組んでおられる様子でした。週末に一週間の振り返りとしての担当者とのミーティングの時間を設けて、その都度仕事上の困り事を解消するように会社として配慮をされているそうです。見学後、保護者や教職員からの質疑に丁寧に答えていただき、有意義な見学会となりました。その中で、お二人が気持ちよく働けるように周囲が配慮できるような環境を整えているとのお話があり、このような企業が群馬県に増えていってくれたらと感じました。この度は、このような機会を与えてくださった一条工務店群馬さんに感謝申し上げます。

お知らせ		
	ゆうあいフェスティバル	平成31年1月8日(火)～10日(木) 県庁県民ホール
	前橋市特別支援学級・特別支援学校合同作品展	平成31年1月31日(木)～2月3日(日) 前橋元気プラザ21
	あすなろ祭	平成31年3月8日(金)～9日(土) ベイシア文化ホール

編集後記

綿先生（今年度の県大会の講師）のお話しを２回聞く機会がありました。分かり易く多くのことが心に残りました。（丸山）